



かわはく No.13

CONTENTS

テーマ展示情報「炭～いまを生きる知恵とちから～」.....	2
今回の表紙の写真は	3
アンケート調査の結果から	4
川辺の生きもの百科 No 3	5
荒川の支流を訪ねる その2「入間川」前編	6
かわはく日誌	7
教育普及活動のご案内	8



テーマ展示 情報 !!

炭

～いまを生きる知恵とちから～

(開催期間) 平成14年3月16日(土)～6月30日(日)

暖をとる。焼く。最近、グルメ指向やアウトドア・ブームのほか、環境への関心の高まりとともに、木炭が注目されています。今回の展示では、昔ながらの炭焼き事情、生活と環境の中で今を生きる木炭について紹介しました。

さいたまの炭焼き

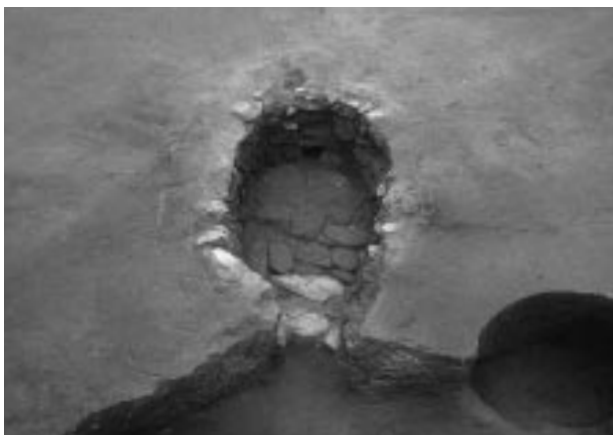
日本では、弥生時代から木炭が使われていたようです。埼玉県では平安時代の炭焼窯跡がみついています。

江戸時代には秩父地域に沢山の炭焼窯が作られ、幕府や江戸市中に木炭を供給していました。

明治以後、工業が発達し生活が変化すると、生産量が急速にのびた時期がありましたが、1960年代を境に燃料が石油や石炭に変わると、生産量は激減しました。



炭俵を運ぶ(荒川村歴史民俗資料館提供)
昭和初期の秩父市浦山。1俵は15kg。



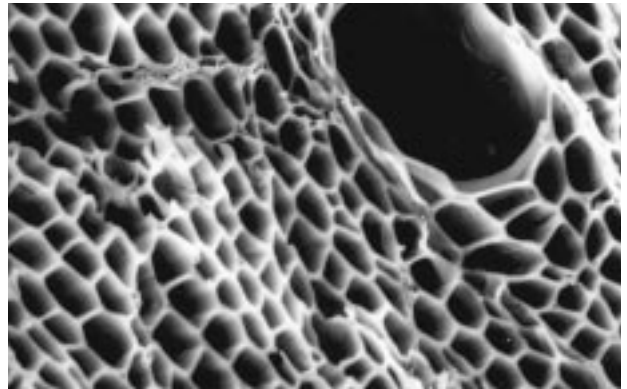
平安時代の炭焼窯跡(寄居町中山遺跡2号炭焼窯跡)
今の窯と同じ焼き方だったはずだ。

科学の目で見ると

木炭というと黒く焼け焦げた木という程度の印象かも知れません。でも、科学の目を通してみると、木炭の横顔はまったく違ってきます。

樹木は炭水化物を主成分としています。炭水化物は熱を加えると分解するので、樹木を熱すると、細胞を作っている炭素だけが残ります。

炭素だけになった樹木「木炭」は、たくさんの細い管を束ねたような構造をしています。



電子顕微鏡でみたナラ炭(株熊谷カーボン提供)
多孔質の炭の構造がよくわかります。400倍。

日本の炭は芸術品!? ~茶の湯と炭~

茶の湯では、湯を沸かすための炭にもこだわります。理想の炭は、菊割れという美しいひびが入り、火付き火持ちともよいものが求められます。焼くのに大変な技術が必要です。

茶の湯では、炉や風呂の中にいろいろな形の炭を継ぎ、湯を沸かします。この作法を炭手前といいます。



炭手前のように



木炭の環境改善能力

木炭の多孔質構造は、汚れや臭いのもとを吸着したり、微生物の住処になったりするのに適しています。脱臭剤、調湿剤、土壌改良剤、ダイオキシンを分解する微生物培養棚等としてはうってつけの材料です。この構造を利用して、行政・民間企業・市民団体などで、さまざまな取り組みが行われています。



和紙工場に設置した木炭浄化施設の例
(株)熊谷カーボン設置の浄化施設です。民間企業の活躍はめざましく、研究も進んできました。

アート、そしてヒーリング

昨今、人々の関心は自然との共生や良い環境で住まう質の高い生活に向かうようになってきました。さまざまな木炭を使ったオブジェは、脱臭・調湿とともにマイナスイオン・ガスを発生するともいわれ、リクライゼーションを可能にしています。

(岩田明広)



炭を使ったさまざまなオブジェ
アレンジメント次第で日常空間を美しく彩る。



寄居町ふるさと懇話会が実施した木炭による浄化の例
(岩田省三氏撮影・提供)

寄居町天沼公園内を流れる天沼川の一部に木炭を投入し、水質浄化に取り組んでいる。



いろいろな炭
カボチャ・オレンジ・クリ・クルミ・サツマイモ...どんなものでも炭になる。

今回の表紙写真はモクズガニです

モクズガニは、甲の幅が約6cm前後のカニで、はさみにふさふさした毛が生えているのが特徴です。英語では手袋ガニという意味の名(Mitten crab)で呼んでいます。

河口域で交尾し海で産卵し、メガロパ幼生の時期から川を上り成長します。

川でとれるカニでは美味しく、日本では古くから食用とされてきました。竹で編んだウケで捕まえる

ことができます。中華料理の食材で有名な上海ガニ(シナモクズガニ)は近い種類です。荒川では、川本町や熊谷市など、中流部で毎年採集の記録があります(埼玉県中央漁業共同組合による)。夜行性の動物で目にする機会は少ないので、知る人は少ないようです。当館では博物館近くで地元の方が捕獲した個体を、飼育・展示しています(平成14年3月現在)。

(榆井 尊)



平成12年度

さいたま川の博物館

来館者のアンケート調査から

自由記入により4月から3月までの12ヶ月間実施したところ1337件の回答が寄せられました。

来館者の住まい(グラフ1)

県内が8割、以下東京、群馬と続く順位とその割合は過去3カ年ほとんど変わりません。県内割合は前年比では「その他」が増えており、遠隔地からの来館者が多くなってきたことを示しています。

来館者の年齢・同行者(グラフ2)

10歳代以下が6割内外を占め、30～40歳代がそれに次ぐのは前年と同じ傾向です。家族同行の割合が多いことから、子供同伴(おそらく小学生以下)の親子が多いことが考えられます。家族同行の逡減(61 57 48%)は友人同行の漸増と関連しています。

かわはくを何で知ったか(グラフ3)

「彩の国だより」がトップでほぼ25%近いのも前年と同じですが、「知人」が同割合になってきたのは大きな特色です。来館経験者の「口コミ」によるところが大きいとすれば、川博の魅力を日々アピールしてゆくことの大切さをあらためて感じさせます。

来館回数(グラフ4)

「はじめて」が減少(66 60 52%)し、その分、3回以上が増加しています。「2回目」の割合は各年ほとんど同じです。「はじめて」が多いのはまだまだ川博が知られていないことを示しますが、複数回割合の増加は大きな特徴です。10歳未満、10歳代の来館が多いことからこれらの年齢層を含んだ階層の複数回来館の増加が考えられます。

展示・施設関係(グラフ5・6)

屋内外の展示全般について、70%以上が(よく)わかった、6%が(やや)わかりにくかったという割合は過去3年間同傾向です。アドベンチャーシアターは75%が(大変)楽しかったと答えています。要望意見として、「もっと解説を(多く)わかりやすく」「子供が楽しめる施設を多く」などがありました。低年齢層の子供を連れた家族が多いことの流れとみることができ、今後の運営上の留意点と考えます。「(川博の)場所がわかりにくい」「駐車場が狭い」などの意見もありました。

プレイリーダーの対応・説明(グラフ7・8)

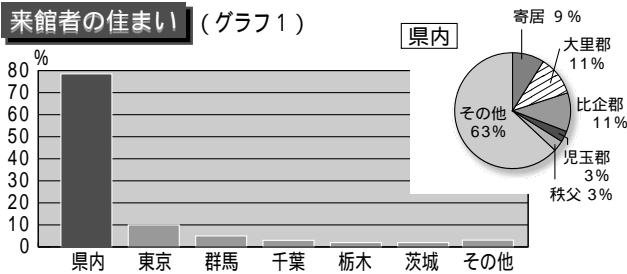
案内・解説スタッフのプレイリーダーについては例年通り70%以上の人々から支持をいただいています。「親切でよかった」などの好評のほか「(説明の)言葉が聞き取りにくい(早い)」などの意見もありました。

今後、望まれる事業(グラフ9)

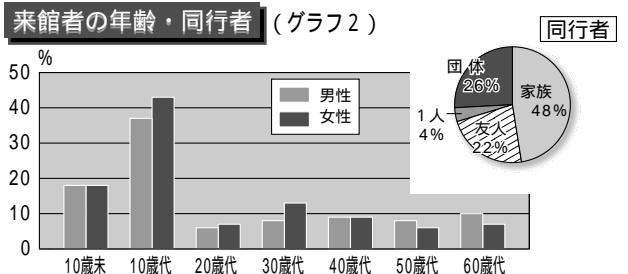
「川辺のまつり」が突出し、以下映画会から講座・講演にいたるまで順位、割合は例年とほとんど同じです。「夏休みに子供が楽しめるイベントを」という意見がありました。いま川博に何を望むかという願いが色濃く反映されたものと考えられます。

アンケート結果からは、総じて子供同伴の家族来館が多いことが予想されます。今後、博物館を理解してもらおう「サポーター」として重要な年齢層の子供達に、如何に博物館としての魅力を感じてもらおうかが大切であると考えます。(小久保 徹)

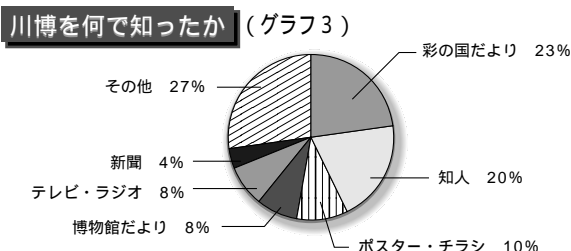
来館者の住まい(グラフ1)



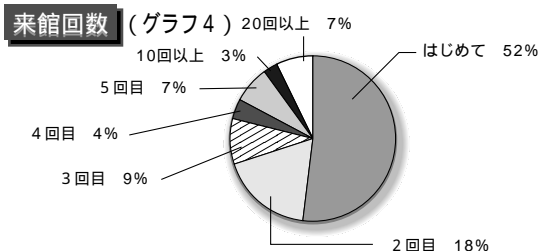
来館者の年齢・同行者(グラフ2)



川博を何で知ったか(グラフ3)

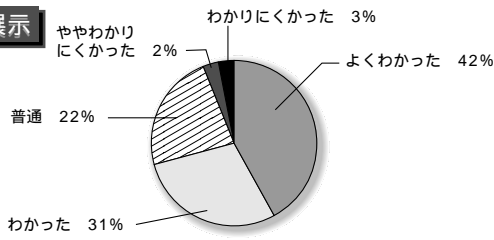


来館回数(グラフ4)

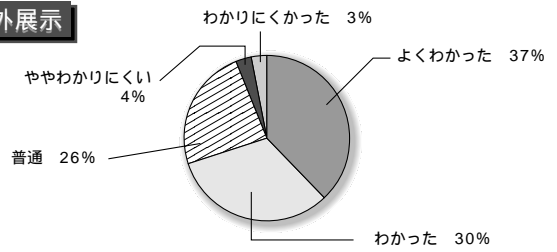




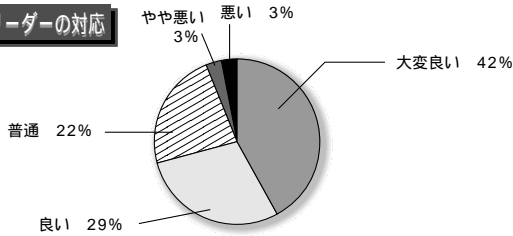
屋内展示



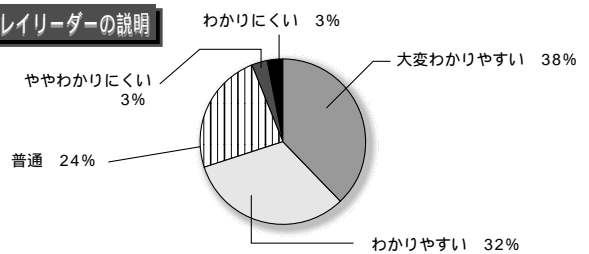
屋外展示



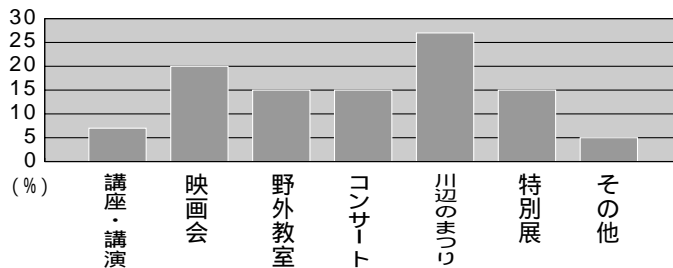
プレイリーダーの対応



プレイリーダーの説明



今後、望まれる事業



川辺の生き物百科 No.3

ホトケドジョウ (仏泥鰌) ドジョウ科 *Lefua echigonia*

湧き水の流れ込む小川や谷戸のきれいな水のところに住むドジョウで、体型は細長い円筒形をしており、ふつうのドジョウよりも短くずんぐりしています。色は変異もありますが、茶色く体側には黒い点が散在しています。正面から見ると、下あごに黒い斑点が二つあります。ヒゲは4対8本です。食べ物は、水生昆虫やアカムシなどの小動物です。

清流を好むホトケドジョウは、都市化の進展や、農業用水路の三面コンクリート護岸化などで急速に減少していて、かつてはありふれてみられたものが、今では著しくまれな種類になっています。千葉県の市川市では、市内各地にみられたものが今では自然観察園として保護されている一カ所の池でみられるものの、他では姿を消したとのことです。神奈川県下では、清流を象徴する魚として、各地で保護運動が起こっています。環境省では絶

滅危惧種に指定しています。

当館では、多摩丘陵の谷戸で生息環境が破壊されたため、死にかけていたホトケドジョウを保護して飼っていた研究所から、その一部を分けていただき、溪流観察窓で飼育展示しています（平成14年3月現在）。とてもあいきょうのあるかわいい魚です。埼玉県でも生き残っている谷戸があると思われるので、探してみると面白いでしょう。

(榎井 尊)





荒川の支流を訪ねる

その2 『入間川』前編

初冬の穏やかに晴れ上がった日、荒川の左岸側を南下するようにして入間川との合流点に向かいました。桶川市、上尾市、さいたま市北西部のこのあたりでは、市境が荒川本流を越えて右岸側に突き出ていたりします。蛇行する旧河道がそのさかいになっているからです。なかでも開平橋のすぐ上流は、上尾市がもっとも右岸に突き出た部分で、その頂点はちょうど川島町、川越市と合わせた3市町境の交点になっています。そこは、旧河道の名残を十分に残す三つ又沼ビオトープとなっていて、全体の面積約13ha、総延長600mにも及ぶ木道が設置されています。木道を歩くとコツコツと木に響く靴音が楽しくて、小鳥たちのさえずりとともに、いつまでも歩いていたような気になります。

ちょっとした寄り道を離れて、今度こそ合流点へ。下の写真は荒川・入間川合流点を下流側から撮影したものです。流れは思いのほか静かで、まさにゆっくりと、そして悠々とその流れを湛えています。流れをしばらく見つめていると川の持っている独自のペースみたいなものが、それぞれの個性として感じられてきます。そんな思いに耽っていると、ゴルフ場の渡し船が、ふたつの川の溶け合うあいだを横切っていました。

さて、合流点をあとにして、入間川右岸をさかのぼります。長大な背割堤を右手に見ながら、上っていきます。すぐ向こう側には荒川が流れているはずなのですが、背割堤のためにその姿は全く見えません。

やがて、釘無橋を過ぎて落合橋に至ります。落合橋は、入間川・小畔川・越辺川の3河川を渡って架けられている橋です。落合橋をよく通る方でも、このあたりの風景をゆっくり見る機会はないと思

います。が、ふと足を止めてみると、実にのんびりとしたどこか懐かしさを感じさせる風景が広がっています。小畔川と入間川が寄り添って緩やかに南から西に方向をかえるあたりは、ススキがずっと広がり、そのススキの白い穂が陽に照らされて風に揺られている。見慣れたはずの風景ですが、なぜかとてもありがたく感じてしまいます。

以前かわはくに「小畔川の名前の由来はなんですか？」という質問が寄せられました。いまだに明確な回答を提供できないのですが、今回入間川とともに訪れてみると、確かに由来を知りたくなるような穏やかな風景でした。もし小畔川の名前の由来についてご存じの方がいらしたら、ぜひ博物館までご一報ください。

さらに川越市から狭山市へと右岸をさかのぼります。国道407号線をこえて1kmほど進みますと笹井堰があります。夏には、珠のような飛沫が涼しさを誘う場所として、地元の皆さんに親しまれていますが、意外に知られていない側面があります。前期更新世、約100～150万年前のこのあたりはメタセコイアの林だったようです。1974年に29株の化石林が発見されました。メタセコイアとは、成長すると高さ30mにもなる落葉樹です。最近によく植林されていますが、現生種は1945年に中国で発見され、生きた化石として話題になりました。ただ残念なことに笹井の化石林は、現在ほとんど残されていません。

入間市から飯能市にかけて、入間川は徐々に表情を変えていきます。それは、音となって表れます。すなわち水が流れ落ちる溪流の水音です。

今回は、入間川の上流部をさかのぼり入間川の起点まで訪ねてみたいと思います。（伴瀬宗一）



右が荒川、左が入間川です。（川越市古谷本郷の荒川右岸から撮影しました）



かわはく日誌

11月1日～2月28日

- 11月4日(日) カワシロウのエコショップ「簡単にできる水圧実験」(49人) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(60人)
- 11月6日(火)～8日(木) 中学生社会体験「寄居町立男衾中学校社会体験チャレンジ」(延12人)
- 11月10日(土) 土曜おもしろ博物館「草の実であそぼう」(32人)
- 11月10日(土) 子ども放送局「津軽三味線の世界」ほか(11人)
- 11月11日(日) カワシロウのエコショップ「簡単にできる水圧実験」(28人) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(52人)
- 11月14日(水) 県民の日記念イベント ベーゴマ・シャボン玉・工作教室・オリエンテーリングなどのイベント(3957人) 全館ライトアップ(129人)
- 11月18日(日) シネマかわはく「トム・ソーヤの冒険 あこがれの蒸気船」(124人)
- 11月23日(金) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(60人)
- 11月24日(土) 学芸職員による「ガリバーウォーク」(46人) 子ども放送局「おーはー！声優やまちゃんのようにになりたい」ほか(35人)
- 11月25日(日) カワシロウ講座「農業水利 田畑を潤す水の循環」講師:元木 靖氏(19人)、ボランティアによる「ガリバーウォーク」(24人)
- 12月2日(日) カワシロウのエコショップ「簡単にできる水圧実験」(38人) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(69人)
- 12月8日(土) 土曜おもしろ博物館「砂絵を描こう」(51人) 子ども放送局「こんにち動物の気持ちかわかる?!」ほか(21人)
- 12月9日(日) カワシロウのエコショップ「簡単にできる水圧実験」(38人)
- 12月16日(日) 身近な環境学習講座「水はどこからやってくる/地球をめぐる水」(16人) シネマかわはく「せんぼんまつばら」(20人)
- 12月22日(土) 身近な環境学習講座「GISから流域を読む/空中写真から流域を読む」(15人) 学芸職員による「ガリバーウォーク」(3人) 子ども放送局「夢はいつかかなう！～ドリーム・カム・トゥルー～」ほか(16人)
- 12月23日(日) 身近な環境学習講座「和田吉野川の観察(現地見学)」(11人) 雪山観察会「雪山を見よう」(10人)
- 1月6日(日) カワシロウのエコショップ「簡単にできる水圧実験」(9人)
- 1月12日(土) 土曜おもしろ博物館「ストーンペインティングに挑戦」(65人) 子ども放送局「知恵めぐりで日本縦断」ほか(21人)

- 1月13日(日) カワシロウのエコショップ「簡単にできる水圧実験」(59人)
- 1月20日(日) シネマかわはく「長江悠々」(21人)
- 1月24日(木) 博物館ボランティア研修会「首都圏外郭放水路等現地視察」(4人)
- 1月26日(土) 子ども放送局「あこがれの職業」ほか(16人) 学芸職員による「ガリバーウォーク」(18人)
- 1月27日(日) 学芸員の荒川新発見講座「荒川舟運の復権を探る」(6人)
- 12月22日(土)～2月3日(日) 絵画展「第2回子どもが描く荒川」
おかげさまで、幼児から中学生までの作品486点の応募がありました。審査結果は下記のとおりでした。紙面の都合で館長賞とかわはく賞のみを紹介します。来年度もたくさん作品の応募をお待ちします。

館長賞:

はらぐち だいきさん(5歳): 松崎裕美さん(小3)
鈴木彩夏さん(小4): 茂木顕子さん(中2)

かわはく賞:

よしかわ ひろみさん(4歳): 木村圭佑さん(小3)
柴 香菜さん(小4): 堀口友花李さん(中2)



表彰式後の展示室見学の様子

- 2月9日(土)～3月3日(日) 「第21回川の写真コンクール 入選作品展」
- 2月9日(土) 土曜おもしろ博物館「冬の使者白鳥をみよう」(36人) テーマ展ワークショップ「炭焼き体験～炭窯造りから炭焼きまで～」窯造り第1日目(5人) 子ども放送局「テニス大好き！」ほか(7人)
- 2月10日(日) カワシロウのエコショップ「簡単にできる水圧実験」(52人)
- 2月16日(土) 雪山観察会「雪を見よう」(19人)
- 2月17日(日) シネマかわはく「走れ白いオオカミ」(30人)
- 2月20日(水) 博物館ボランティア研修会「秋ヶ瀬浄水場等現地見学」(4人)
- 2月23日(土) テーマ展カワシロウのエコショップ「炭焼き体験～炭窯造りから炭焼きまで～」窯造り第2日目(5人) 学芸職員による「ガリバーウォーク」(19人) 子ども放送局「健康はおいしいごはんから！」ほか(16人)
- 2月24日(日) 学芸員の荒川新発見講座「荒川舟運の復権を探る」(19人)

開館以来の入館者数 119万7,024人

(2月末現在)

教育普及活動のご案内

- 楽しく、ためになる「かわはく」 -

3月

9日(土) 土曜おもしろ博物館「身近な水を調べよう」
10:30~12:00 14:00~15:30 ☎ 身近かだからこそ、いま振り返る「水」の大切さ

3月16日(土)~6月30日(日)

テーマ展示「炭~いまを生きる知恵とちから~」
炭焼きの生活、炭の物理的・科学的性質を通じて水環境の諸問題を考えます。

テーマ展ワークショップ

「炭焼き体験~炭窯造りから炭焼きまで~」

第1回2月9日(土)、第2回2月23日(土)

第3回3月9日(土)、第4回3月23日(土)

17日(日) シネマかわはく「三ねん寝太郎」
急げ者寝太郎が用水路開削に乗り出します。

21日(木) 川の音コンサート「フルート三重奏」
東邦大学フルート科学生による川や水、春の訪れに関連する曲の演奏会です。

24日(日) 学芸員の荒川新発見講座「川が作った埼玉の大地」
講師: 榎井 尊氏(当館主任学芸員)
平野を作る河川堆積物の形成過程を地下地質の資料から考え、環境が与える影響も紹介します。

4月

6日(土) シネマかわはく「トムソーヤの冒険 - 冒険・冒険また冒険 -」(27分)
ミシシッピー川の大自然を舞台にしたトムとハックの冒険物語(アニメ)。

21日(日) 野外教室「荒川を歩く 大麻生駅前~荒川大橋まで 定員:50人 ☎」
春たけなわの荒川沿岸を歩きながら、河畔林でさえずる野鳥や川にまつわる史跡見学を行います。

5月

3日(金) [荒川劇場]川と獅子舞 出演は黒田ささら獅子舞保存会(花園町)です。

4日(土) シネマかわはく「魚が空を飛んだよ」(25分)
漁業の町の子もたちが川や森の大切さに気づく物語(アニメ)。

11日(土) 土曜おもしろ博物館「川原の花で押し花をつくらう」
河原に咲いた春の野花を押し花にして、しおりにします。 10:30~12:00 14:00~15:30 ☎

26日(日) カワシロウ講座「荒川低地の地形と水害~水害ハザードマップ~」
講師: 大矢雅彦氏(葛飾区郷土と天文の博物館名誉館長) 全国の水害ハザードマップをてがける講師による荒川流域の紹介。

6月

1日(土) シネマかわはく「SOSそれ行けコロリン」(34分)
コロリンは地球環境を守るため怪獣と戦う(アニメ)。

2日(日) 環境の日記念イベント「荒川の水質を調べる」
10:30~13:30~、荒川の水をパッケージなどで調べ、水から環境を考える。

8日(土) 土曜おもしろ博物館「水鉄砲をつくらう」
昔ながらの遊び水鉄砲を作って水と親しもう。

10:30~12:00 14:00~15:30 ☎

23日(日) カワシロウ講座「荒川低地の地形と水害~志木周辺を訪ねて~」(現地見学) 講師: 久保純子氏(早稲田大学教育学部助教授) 荒川の水害ハザードマップを手がけた講師による河川地形の現地観察。

7月

特別展「水辺の妖怪:河童」

期間: 7月20日(土)~9月8日(日)

妖怪として恐れられた河童も、現在では水辺の番人として活躍することが多いようです。本展覧会では、河童の描かれた浮世絵やミイラを展示すると共に、河童池を再現してその正体に迫ります。

7/27(土) 8/17(土)ワークショップ

8/31(土)講演会「水辺の妖怪:河童」

詳しくは次号14号でお伝えします。

6日(土) シネマかわはく「七つのほし」(12分)・「勇氣のあるホタルと飛べないホタル」(17分)
星になった少女の伝説とホタルの友情を描いた物語の2本立て(アニメ)。

6日(土)・7日(日) 川の日記念イベント「七夕づくり」
年中行事の七夕で、天の川に思いを寄せてみましょう。

13日(土) 土曜おもしろ博物館「箱メガネで荒川の魚を観察しよう」
荒川に生きる生物たちは、ひっそりとですが逞しく生きてます。 10:30~12:00 14:00~15:30 ☎

20日(土) [荒川劇場]川と太鼓 出演は石尊太鼓保存会(寄居町)です。

❗ 原則として、毎月第2土曜日10:30~と14:00~は「土曜おもしろ博物館」・第1土曜日13:30~は「シネマかわはく(映画会)」が開かれます。最新情報は彩の国だより等で紹介されています。参加はどれも無料で、定員になりしだい締め切ります。

インターネットでも情報が紹介されています!

<http://www.kumagaya.or.jp/kawahaku/index.html>

【お願い】 行事は都合により変更になることもあります。ご了承ください。 ☎印のついた行事は、電話もしくは、Faxで原則として実施月の1日からお申し込みください。 川の情報もお寄せください。

編集・発行

さいたま川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39
TEL048-581-7333(庶務)・8733(学芸) FAX048-581-7332
2002年3月22日発行